

講義要項

科目	小児科学	担当講師	黒沢・中島・三村・石川・種市・須貝・須田・堀中・内山
対象学年	第2学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	臨床で見られる小児科領域における各種疾患、症状、リハビリテーションを含めた治療法について、基本的な知識を学習する。		
目標	小児領域における、代表的な疾患、ならびに症状、治療法について説明できる。		
教科書	標準理学療法作業療法学 専門基礎分野 小児科学 医学書院		
参考書			
学習評価	筆記試験を100%とし、60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に判定する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	総論・診断	講義
2	循環器疾患	講義
3	呼吸器疾患	講義
4	消化器疾患	講義
5	内分泌・代謝疾患	講義
6	血液疾患・悪性腫瘍性疾患	講義
7	免疫・アレルギー・喘息	講義
8	腎・泌尿器系・生殖器疾患	講義
9	急性疾患(SIDSなど)と感染症(脳炎・髄膜炎・その他細菌／ウイルス性)	講義
10	中枢神経先天奇形(無脳症・二分脊髄・小脳症・水頭症)・てんかん	講義
11	新生児疾患・小児救急	講義
12	中枢神経系疾患(脳性麻痺・重症心身障害児筋ジストロフィー)	講義
13	知的障害を伴う疾患①(ダウン症・知的障害／精神遅滞・ADHDなど)	講義
14	知的障害を伴う疾患②(学習障害(LD)・自閉症／広汎性発達障害／アスペルガー)	講義
15	心身医学疾患(チック・不登校・虐待)	講義

講義要項

科目	老年医学	担当講師	橋立 博幸・佐藤 蓮・岡村 洋克・山田 典彦
対象学年	第2学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	老化に伴う機能・心理の変化と疾病の関係、高齢者をめぐる社会的問題などを総合的に学習する。		
目標	1. 老化について説明できる 2. 加齢に伴う変化について説明できる 3. 老年症候群について説明できる 4. 高齢者のリハビリテーションの現状が説明できる		
教科書	標準理学療法学・作業療法学 老年学 医学書院		
参考書			
学習評価	筆記試験を100%とし、60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に判定する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	高齢者に多い症候(摂食障害、肺炎)①	講義
2	高齢者に多い症候(摂食障害、肺炎)②	講義
3	高齢者に多い症候(がん)③	講義
4	高齢者に多い症候(がん)④	講義
5	高齢者に多い症候と老年症候群①	講義
6	高齢者に多い症候と老年症候群②	講義
7	高齢者に多い症候と老年症候群③	講義
8	高齢者リハビリテーションの現状①	講義
9	高齢者リハビリテーションの現状②	講義
10	高齢者リハビリテーションの現状③	講義
11	加齢に伴う生理機能の変化(形態学的変化も含む)①	講義
12	加齢に伴う生理機能の変化(形態学的変化も含む)②	講義
13	加齢に伴う運動機能の変化①	講義
14	加齢に伴う運動機能の変化②	講義
15	高齢期の特徴と臨床での現状と展望(トピックスを含め)	講義

講義要項

科目	予防作業療法学	担当講師	高橋(悠)・阿久澤・講内・村上・岡林・関口・高橋(啓)
対象学年	第2学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	「予防医学」、「予防リハビリテーション」の概念を理解し、少子高齢社会における健康寿命の延長や老老介護、認知介護の増加を緩和するために作業療法士ができることを考える基礎とする。 作業療法の適応範囲を検討し、作業療法の発展、進展のための足掛かりとする。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予防とはなにかが説明できる 2. 介護分野における作業療法士の役割が説明できる 3. 予防作業療法の領域とその概要を説明できる 4. 予防給付のながれ(対象者抽出からサービス提供まで)が説明できる 5. 介護予防事業の内容を身体機能、生活行為ごとに整理して説明できる 6. クライエントの作業に焦点をあてた介護予防の介入を具体的に検討し、自分で結論が出せる 		
教科書	理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション 南江堂		
参考書	適宜資料を配布する		
学習評価	筆記試験70%と提出課題(講義カード)30%で100%とし、60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。 ※再試験の場合は、筆記試験100%のうち60%以上で合格とする。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	公衆衛生学との重複部分確認、予防医学、予防リハビリテーションの範囲と対象、科目で扱う内容の確認、作業療法との関係確認	講義
2	予防作業療法の目指すもの 定義～領域まで (健康寿命 身体活動 一次・二次・三次予防 作業療法士の役割)	講義
3	健康増進、生活習慣病予防、疾病予防について	講義
4	予防作業療法の概要 (健康増進、生活習慣病予防、疾病予防、産業保健領域、スポーツ障害、介護予防、三次予防等)	講義
5	【講義カード該当】学生年代から取り組む一次予防 (肩こり・腰痛予防体験)	講義
6	介護予防とは (介護予防とは 目的・必要性 介護予防において作業療法士ができることを考える)	講義
7	介護予防とは (地域包括ケアシステムと介護予防 一次予防事業と二次予防事業)	講義
8	【講義カード該当】作業療法士としての介護予防を目的としたアプローチ	講義
9	【講義カード該当】口腔機能からの介護予防	講義
10	【講義カード該当】三次予防(疾患治療、重症化予防、合併症発症予防、再発予防) 生活期の本人と家族支援の実際	講義
11	【講義カード該当】生活行為向上マネジメント(MTDLP)の概要	講義
12	介護予防と作業療法 ケーススタディ レポート作成 (介護予防プラン・MCIの方への認知症予防)	講義
13	介護予防と作業療法 ケーススタディ レポート作成 (介護予防プラン・MCIの方への認知症予防)	講義
14	介護予防と作業療法 ケーススタディ 発表 (介護予防プラン・MCIの方への認知症予防)	講義
15	発表・まとめ	講義

講義要項

科目	基礎臨床医学	担当講師	高橋 悠・神山 真美・塩澤 智美・岸 潤樹
対象学年	第2学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	作業療法と関わりの深い代表疾患や各種合併症を切り口に、機能障害の病態生理、回復過程を学ぶ。 それにより、作業療法評価や治療につなげる。		
目標	1. 機能障害の病態生理について理解し説明できる 2. 機能回復過程について理解し説明できる 3. 代表的合併症の病態生理について理解し説明できる 4. 代表疾患の病態生理について理解し説明できる		
教科書	1. 病気がみえる Vor.2 循環器 メディカルビュー社 2. 病気がみえる Vor.4 呼吸器 メディカルビュー社 3. 病気がみえる Vor.7 脳・神経 メディカルビュー社 4. 病気がみえる Vor.11 運動器・整形外科 メディカルビュー社		
参考書	各学習領域を含む教科書を使用する。また、適宜資料配布する。		
学習評価	筆記試験を100%とし、60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考	1年次で学んだ各単元に関連する解剖、生理学および疾患について復習をしたうえで授業に臨むこと。 解剖および機能については既にわかっているものとして授業を進めていく。		

講義内容:

回数	内容	学習法
1	脳血管障害(代表疾患の病態生理)	講義
2	脳血管障害(脳の構造と機能局在)	講義
3	脳血管障害(中枢神経障害における脳機能回復のメカニズム)	講義
4	精神障害(精神科領域の対象疾患)	講義
5	精神障害(精神科領域の対象疾患)	講義
6	認知症(疾患の病態生理)	講義
7	末梢神経損傷(疾患の病態生理)	講義
8	脊髄損傷(疾患の病態生理)	講義
9	脊髄損傷(褥瘡の発生機序、一般的な対応方法)	講義
10	脊髄損傷(自律神経障害の発生機序、一般的な対応方法)	講義
11	骨折(疾患の病態生理)	講義
12	骨折(筋軟部組織、骨・軟骨・関節の損傷と治癒過程)	講義
13	循環器疾患(高血圧・心筋梗塞・動脈硬化症など)	講義
14	呼吸器疾患(COPDなど)	講義
15	リウマチ(疾患の病態生理)	講義

講 義 要 項

科目	作業療法評価総論	担当講師	高橋 悠
対象学年	第2学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	<p>作業療法の実際にあたり、背景情報・医学的情報の収集に始まり、患者の問題点・ニーズを探るために作業療法の評価を行う。これらの情報は検査・測定の結果を数値で表したものでばかりではない。むしろ、観察や面接、家族や学校・職場の関係者、対象者に関する他の専門職などから得られる情報が貴重なデータとなる場合が多い。</p> <p>ここでは、作業療法評価について、プロセスの中での位置づけから、評価の目的や意義、他の領域の専門職とのコミュニケーションを保つことも含め、評価の妥当性について学ぶ。</p> <p>運動評価技術論、認知評価技術論、精神評価技術論における各評価技術(Assessment)習得の学習に入る前に、上記の内容及び、情報収集、問診から仮説立案について学習をしていく。</p>		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法における評価の意義・目的を説明できる 2. 作業療法プロセスにおける評価の位置づけを説明できる 3. 作業療法評価の一連の過程を説明することができる(効果判定までを含む) 4. 情報収集(情報収集、画像の読み取り、面接、観察)の種類と方法について説明できる 5. 評価の手段(種類、尺度、信頼性と妥当性、方法)について説明できる 6. 仮説から評価計画の立案ができる。評価の実施計画のポイントを説明できる 7. 統合解釈と問題点と利点の抽出の視点や方法について説明できる 8. 治療目標の考え方や設定について説明できる 9. 再評価・効果判定の仕方を説明できる 10. 記録・報告ができる(目的、条件、方法の説明できる) 		
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 岩崎テル子 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院 2. 岩崎テル子 標準作業療法学 作業療法概論 第3版 医学書院 		
参考書	適宜資料を配布		
学習評価	筆記試験を100%とし、60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等も考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション 作業療法の目的 作業療法の枠組み、作業療法実践過程	講義
2	作業療法評価手順、作業療法評価の時期とその目的	講義
3	評価過程で収集する情報 ① 初期情報(基本情報、医学的情報、社会的情報)	講義
4	評価過程で収集する情報 ② 作業療法における情報収集 「作業プロフィール」「作業遂行分析」	講義
5	仮説立案	講義
6	評価計画の立案	講義
7	面接 COPM	講義
8	観察 ① 観察方法とおかしやすいバイアス	講義
9	観察 ② AMPS 観察の視点と分析	講義
10	検査・測定	講義
11	臨床推論 ① リーズニングの種類	講義
12	臨床推論 ② 統合と解釈の視点～強みと問題点の抽出	講義
13	目標設定の考え方、記述の仕方	講義
14	治療計画の立案～実施	講義
15	再評価・効果判定 記録・報告の目的・方法	講義

講義要項

科目	運動評価技術論	担当講師	神山 真美・高橋 悠・岸 潤樹												
対象学年	第2学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・実習2単位・90時間												
概要	この科目は、身体機能面の検査測定についての技能を修得し、対象者の身体機能を正確に把握することを目的に設置している。学内では健常者に対して安全・正確に検査測定を実施できることが目標となる。そのための過程である対象者へのオリエンテーション、説明技能も評価の対象となる。														
目標	<p>下記項目の習得を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各検査・測定の意義・目的が説明できる 2. 現象・障害の原因(病態)が説明できる 3. 各検査・測定上の注意事項が説明できる 4. 検査・測定方法を理解し、適切な測定ができる(技能の習得) 5. 各検査・測定結果の意味(読取りと推測)が理解できる 	<p>【評価項目】</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>①バイタルサインズ</td> <td>②形態測定</td> </tr> <tr> <td>③関節可動域測定</td> <td>④徒手筋力検査</td> </tr> <tr> <td>⑤知覚検査</td> <td>⑥反射検査</td> </tr> <tr> <td>⑦筋緊張検査</td> <td>⑧上肢機能検査</td> </tr> <tr> <td>⑨発達段階および姿勢反射検査</td> <td>⑩協調性検査</td> </tr> <tr> <td>⑪整形外科疾患の検査測定</td> <td>⑫脳神経検査</td> </tr> </table>	①バイタルサインズ	②形態測定	③関節可動域測定	④徒手筋力検査	⑤知覚検査	⑥反射検査	⑦筋緊張検査	⑧上肢機能検査	⑨発達段階および姿勢反射検査	⑩協調性検査	⑪整形外科疾患の検査測定	⑫脳神経検査	
①バイタルサインズ	②形態測定														
③関節可動域測定	④徒手筋力検査														
⑤知覚検査	⑥反射検査														
⑦筋緊張検査	⑧上肢機能検査														
⑨発達段階および姿勢反射検査	⑩協調性検査														
⑪整形外科疾患の検査測定	⑫脳神経検査														
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院 2. 新・徒手筋力検査法 第9版 協同医学出版社 3. 標準作業療法学 身体作業療法学 第3版 医学書院 														
参考書	<p>* 適宜資料を配布 病気がみえる Vol.7 脳・神経、Vol.2 循環器 メディカルビュー 各自1年次に使用した教科書・授業プリントで病態理解に必要と思われるものがあれば準備する</p>														
学習評価	<p>筆記試験を100%、実技試験を100%とし、それぞれ60%以上を合格とする。実技試験については各ブースで実施した合計を100%とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に判定する。 評価については、本試験に合格した場合は筆記試験と実技試験の平均点を用いる。 再試験または単位不認定の場合は、筆記または実技のうち点数の低い方を用いる。</p>														
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始前に、実技が可能な服装・身だしなみを準備し参加すること。 2. 評価キットを持参すること。 3. 病態生理や検査測定の基本方法および技能が求められる。その為、知識の予習復習、技術修得のための練習は必須とする。 														

講義内容:

回数	内容	学習法	回数	内容	学習法
1	生理学的徴候(意識・バイタル・その他)	演習・実習	31	上肢機能検査(STEF・MFT)	演習・実習
2	生理学的徴候(意識・バイタル・その他)	演習・実習	32	上肢機能検査(STEF・MFT)	演習・実習
3	形態測定	演習・実習	33	反射検査	演習・実習
4	形態測定	演習・実習	34	反射検査	演習・実習
5	関節可動域測定	演習・実習	35	筋緊張	演習・実習
6	関節可動域測定・上肢	演習・実習	36	筋緊張	演習・実習
7	関節可動域測定・上肢	演習・実習	37	形成的評価	演習・実習
8	関節可動域測定・上肢	演習・実習	38	形成的評価	演習・実習
9	関節可動域測定・下肢	演習・実習	39	形成的評価	演習・実習
10	関節可動域測定・下肢	演習・実習	40	協調性検査	演習・実習
11	関節可動域測定・体幹	演習・実習	41	協調性検査	演習・実習
12	徒手筋力検査法	演習・実習	42	脳神経検査	演習・実習
13	徒手筋力検査法・上肢	演習・実習	43	発達段階の評価	演習・実習
14	徒手筋力検査法・上肢	演習・実習	44	姿勢反射検査	演習・実習
15	徒手筋力検査法・上肢	演習・実習	45	姿勢反射検査	演習・実習
16	徒手筋力検査法・上肢	演習・実習	46	疾患別評価(整形)	演習・実習
17	徒手筋力検査法・下肢	演習・実習			
18	徒手筋力検査法・下肢	演習・実習		* 講義の順番は変更になることがあります	
19	徒手筋力検査法・下肢	演習・実習			
20	徒手筋力検査法・体幹	演習・実習			
21	知覚検査	演習・実習			
22	知覚検査	演習・実習			
23	知覚検査・痛みの評価	演習・実習			
24	片麻痺機能検査(上田12段階・Br.stage)	演習・実習			
25	片麻痺機能検査(上田12段階・Br.stage)	演習・実習			
26	片麻痺機能検査(上田12段階・Br.stage)	演習・実習			
27	片麻痺機能検査(上田12段階・Br.stage)	演習・実習			
28	片麻痺機能検査(上田12段階・Br.stage)	演習・実習			
29	片麻痺機能検査(その他)	演習・実習			
30	上肢機能検査(STEF・MFT)	演習・実習			

講 義 要 項

科目	認知評価治療技術論	担当講師	高橋 悠・濱野 百合子・篠塚 也寸
対象学年	第2学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・実習2単位・90時間
概要	脳機能障害による認知機能(高次脳機能)に対する基本的評価・治療の理論と技術を学ぶ。		
目標	<p>◎認知機能障害(高次脳機能障害)を有する対象者の行動特性を知り、作業療法(評価治療)を実施できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知機能(高次脳機能)の役割とその障害による影響を説明できる 2. 認知機能障害(高次脳機能障害)をもたらす疾患について説明できる 3. 対象者の疾患・症状に応じた評価を選択することができる 4. 各評価(検査・測定、観察)の意義・目的が説明できる 5. 各評価(検査・測定、観察)の方法を理解し、注意事項をふまえて適切に実施できる 6. 各評価結果の意味(読み取りと推測)を理解し、説明できる 7. 認知機能障害(高次脳機能障害)の治療理論を説明できる 8. 対象者に対し治療理論に基づき作業療法治療選択ができる 9. 対象者に対し注意事項をふまえて、作業療法治療が実施できる 		
教科書	標準作業療法学 高次脳機能障害学 第2版 医学書院 標準作業療法学 作業療法評価学 医学書院 病気がみえる⑦ 脳・神経 メディックメディア PT・OT基礎から学ぶ 画像の読み方 第3版 医歯薬出版		
参考書	高次脳機能障害学 第3版 医歯薬出版		
学習評価	筆記試験を100%、実技試験を100%とし、それぞれ60%以上を合格とする。 実技試験については各ブースで実施した合計を100%とする。ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に判定する。 評価については、本試験に合格した場合は筆記試験と実技試験の平均点を用いる。 再試験または単位不認定の場合は、筆記または実技のうち点数の低い方を用いる。		
備考	必要に応じて服装・持ち物は指示する。いつ指示されても実技が実施できるように準備すること。 評価・治療技術修得のため、実技練習を反復して復習すること。		

講義内容:

回数	内容	学習法	回数	内容	学習法
1	オリエンテーション、認知機能障害(高次脳機能障害)の基礎①	演習・実習	31	形成的評価②	演習・実習
2	認知機能障害(高次脳機能障害)の基礎②	演習・実習	32	失語の評価	演習・実習
3	認知機能障害(高次脳機能障害)の評価①	演習・実習	33	失語の治療	演習・実習
4	認知機能障害(高次脳機能障害)の評価②	演習・実習	34	失行の評価①	演習・実習
5	認知機能障害(高次脳機能障害)の評価③	演習・実習	35	失行の評価②	演習・実習
6	認知機能障害(高次脳機能障害)の治療①	演習・実習	36	失行の治療①	演習・実習
7	認知機能障害(高次脳機能障害)の治療②	演習・実習	37	失行の治療②	演習・実習
8	注意障害の評価①	演習・実習	38	失行の治療③	演習・実習
9	注意障害の評価②	演習・実習	39	失行の治療④	演習・実習
10	注意障害の治療①	演習・実習	40	形成的評価③	演習・実習
11	注意障害の治療②	演習・実習	41	形成的評価③	演習・実習
12	注意障害の治療③	演習・実習	42	遂行機能障害の評価	演習・実習
13	注意障害の治療④	演習・実習	43	遂行機能障害の治療	演習・実習
14	形成的評価①	演習・実習	44	社会的行動障害の評価・治療	演習・実習
15	形成的評価①	演習・実習	45	まとめ	演習・実習
16	記憶障害の評価①	演習・実習			
17	記憶障害の評価②	演習・実習			
18	記憶障害の治療①	演習・実習			
19	記憶障害の治療②	演習・実習			
20	半側空間無視の評価①	演習・実習			
21	半側空間無視の評価②	演習・実習			
22	半側空間無視の評価③	演習・実習			
23	半側空間無視の治療①	演習・実習			
24	半側空間無視の治療②	演習・実習			
25	半側空間無視の治療③	演習・実習			
26	半側空間無視の治療④	演習・実習			
27	失認の評価①	演習・実習			
28	失認の評価②	演習・実習			
29	失認の治療	演習・実習			
30	形成的評価②	演習・実習			

講義要項

科目	運動治療技術論	担当講師	高橋 悠・岸 潤樹・濱野 百合子
対象学年	第2学年	時期・単位数・時間数	前期・実習2単位・60時間
概要	この科目では、運動器の機能障害および能力障害に対する治療方法を学ぶ。 作業療法で用いられる治療理論と症状・病態の繋がりを理解し、その具体的方法について習得する。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筋緊張へのアプローチができる 2. 関節可動域訓練ができる 3. 筋力増強訓練・持久力訓練ができる 4. 感覚再教育ができる 5. 姿勢制御・バランス訓練ができる 6. 調性障害へのアプローチができる 7. 中枢系の麻痺への治療原則が実施とともに説明できる 8. 協調性障害へのアプローチができる 9. 浮腫・疼痛コントロールができる 10. 離床アプローチができる 		
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版 医学書院 2. 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院 		
参考書	適宜資料を配布		
学習評価	筆記試験を100%、実技試験を100%とし、それぞれ60%以上を合格とする。実技試験については各ブースで実施した合計を100%とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に判定する。 評価については、本試験に合格した場合は筆記試験と実技試験の平均点をを用いる。 再試験または単位不認定の場合は、筆記または実技のうち点数の低い方を用いる。		
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始前に、実技が可能な服装・身だしなみを準備し参加すること。 2. 治療を学ぶにあたって病態生理や評価技術論で学んだ知識や技能が求められる。その為、知識の予習復習、技術修得のための練習は必須とする。 		

講義内容:

回数	内容	学習法
1	関節可動域訓練	演習・実習
2	関節可動域訓練	演習・実習
3	関節可動域訓練	演習・実習
4	関節可動域訓練	演習・実習
5	関節可動域訓練	演習・実習
6	関節可動域訓練	演習・実習
7	筋緊張へのアプローチ	演習・実習
8	筋緊張へのアプローチ	演習・実習
9	片麻痺の運動機能へのアプローチ	演習・実習
10	片麻痺の運動機能へのアプローチ	演習・実習
11	片麻痺の運動機能へのアプローチ	演習・実習
12	片麻痺の運動機能へのアプローチ	演習・実習
13	片麻痺の運動機能へのアプローチ	演習・実習
14	片麻痺の運動機能へのアプローチ	演習・実習
15	協調性障害へのアプローチ	演習・実習
16	協調性障害へのアプローチ	演習・実習
17	筋力増強・筋持久力	演習・実習
18	筋力増強・筋持久力	演習・実習
19	筋力増強・筋持久力	演習・実習
20	筋力増強・筋持久力	演習・実習
21	離床アプローチ	演習・実習
22	離床アプローチ	演習・実習
23	浮腫・疼痛コントロール	演習・実習
24	浮腫・疼痛コントロール	演習・実習
25	感覚再教育	演習・実習
26	感覚再教育	演習・実習
27	姿勢制御・バランス	演習・実習
28	姿勢制御・バランス	演習・実習
29	形成的評価	演習・実習
30	形成的評価	演習・実習

講義要項

科目	生活環境論	担当講師	塩澤 智美・高橋 悠・岸 潤樹・渡邊 泰典
対象学年	第2学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	「環境」「人」「作業」は相互に関係し合い、「作業遂行」に影響をもたらすものである。その中で「環境」とは地域・人的・社会的制度など、対象者を取り巻く環境(状況)全てを指す。本講義では、「生活環境」として、特に「住環境整備」「福祉機器・用具」「自助具」について取り上げ、対象者の生活環境評価、必要な住宅改修・福祉用具の提案を行うための基礎知識について学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な住環境整備の仕方、制度、福祉機器・用具の用途などについて説明できる。 2. 対象者の生活環境を評価できる。 3. 対象者の生活にあった住宅改修(玄関、トイレ、浴室)の提案ができる。 4. 対象者の生活にあった福祉機器・用具の提案ができる。 5. 簡単な自助具を作製できる。 		
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 標準作業療法学 専門分野 日常生活活動・社会生活行為学 医学書院 2. 福祉機器 選び方・使い方 副読本 基本動作編 一般財団法人保健福祉広報協会 3. 福祉機器 選び方・使い方 副読本 自立支援編 一般財団法人保健福祉広報協会 4. 福祉機器 選び方・使い方 副読本 住宅改修編 一般財団法人保健福祉広報協会 		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法学全集 第10巻 福祉用具の使い方・住環境整備 協同医書出版社 2. 生活環境論 第6版 医歯薬出版株式会社 3. OT・PTのための住環境整備論 第2版 三輪書店 その他、適宜資料があれば配布する。		
学習評価	筆記試験80%、課題発表(ケーススタディ)20%で100%とし、60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に判定する。 ※再試験が生じた場合は、筆記試験100%のうち60%以上で合格とする。		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活動作(ADL)の工程、姿勢、動作分析 ・脊髄損傷、脳血管障害、リウマチ、ALS等の病態像(運動器障害作業療法学・神経障害作業療法学にて、より詳細に学習予定) ・医療・介護保険制度、障害者自立支援制度の福祉用具の提供に関する内容 上記については予習しておくこと。 		

講義内容:

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション、作業療法における「生活環境」、ICFにおける環境因子、関連法規・関連サービス	講義
2	住環境整備の基礎知識「図面の見方・描き方」、住環境整備の基本技術(段差・手すりなど)	講義
3	部屋・場所別の住環境整備(玄関・居室・トイレ・浴室を中心に)	講義
4	部屋・場所別の住環境整備(玄関・居室・トイレ・浴室を中心に)	講義
5	福祉用具の基礎知識「福祉用具導入の流れ」「車いす」の適合評価」	講義
6	福祉用具について(各福祉用具について目的・使い方などを調べるグループワーク)	講義
7	福祉用具について(各福祉用具について目的・使い方などを調べるグループワークして発表)	講義
8	疾患(障害者)の特性を踏まえた住環境整備のポイント	講義
9	自助具(リーチャー)作製	演習・実習
10	すまいる館見学	演習・実習
11	すまいる館見学	演習・実習
12	住環境整備(ケーススタディでグループワーク)	演習・実習
13	住環境整備(ケーススタディ)グループ発表	演習・実習
14	ケースの住宅改修案 発表(家屋調整報告書の発表)	演習・実習
15	ケースの住宅改修案 発表(家屋調整報告書の発表)	演習・実習

講義要項

科目	臨床作業療法実習 I	担当講師	高橋 悠・岸 潤樹
対象学年	第2学年	時期・単位数・時間数	前期・実習1単位・45時間
概要	本実習は臨床作業療法実習Ⅲの準備実習として、これまで学内で学んだ知識を臨床と結び付け、技術及び態度を臨床体験の中で表出するものである。それらの臨床体験を通して自らの力を認識する機会とするとともに、今後の課題を見つけることにつなげる。		
目標	<p>作業療法士を志す学生としての基本的態度をより高めながら、学内で学んできた検査・測定における技術を臨床の中で実施し、知識を臨床と結び付ける。それと共に、作業療法プロセスの一部を経験することで、学習統合型実習に向けての先行体験とする。</p> <p>【到達目標】 ◎ある程度の助言・指導の下、作業療法業務の一部を協同参加で実施できる。 詳細は実習要綱p61参照</p>		
教科書	1. 実習要綱 * その他適宜資料を配布		
参考書			
学習評価	学習態度(学内学習・学外実習における学習態度・行動、基本的態度)、出欠席状況(遅刻・早退・欠席とそれともなう報連相)、および提出物について総合的に評価する。詳細は別紙および学生便覧に準ずる。		
実務経験のある教員等による授業	作業療法士として5年以上臨床業務に従事し、かつ臨床実習指導者講習会を修了している病院・施設の作業療法士が、現場での臨床経験及び職員・学生教育の経験等を活かし、学生に作業療法評価および治療に関する助言指導を直接的かつ継続的に行う。多様な経験を積むことができるよう、臨床作業療法実習 I～Vにおいて異なる実習地で実施する。詳細は実習要綱参照。		
備考	別紙については『令和2年度～ 先行体験実習・解剖見学実習の成績評価について』参照		

講義内容:

回数	内容	学習法
1～8	事前セミナー	講義・演習
9～28	臨床作業療法実習 I	実習
29～32	事後セミナー	講義・演習